令和５年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月６日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学び直しと日本語支援を充実させ、学ぶことに苦手意識を持つ生徒の生きる力の基礎となる能力の習得を目指す。 ②生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図る。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①生徒一人ひとりの実情に応じたより効果的な指導の確立を目指す。 ②生徒の実情や社会的ニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を進める。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法を検討するべく、学年会や教科会および各種研修等を行う。 ②教員が授業で ICT をより活用できるようにし、生徒が主体的に学習を深めていくようにするため、ICT の効果的な利用法について研修会を企画・実施する。 ②学習者用端末のより一層の活用を図るため、台数や状態の把握に努める。 ③教科横断的な視点に立った取組みを検討し、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する取り組みを模索し、総合的な探究の時間では、探究発表会を実施する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法について検討でき、生徒の実情に応じた指導法を確立できたか。 ②ICT を活用した授業がより充実し、生徒の実情や社会的ニーズをふまえた多様な学習機会が増えたか。 ②学習者用端末の管理体制が適切だったか。 また、生徒や教員が学習者用端末を活用する機会が増えたか。 ③総合的な探究の時間において教科横断的な視点に立った取組みを行い、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成できたか。	①多様な生徒に対して義務教育段階の学習内容の確認や指導を行い、学力の向上につなげることができた。 ②AI 研修会、ICT 研修会により職員の ICT 教育に対する意識、取り組みが改善した。 ②Chromebook の管理場所の一元化や分かりやすい管理番号にするなど、職員や生徒が利活用しやすい体制を整備することができた。授業等での教員と生徒の ICT 利活用が活発化した。 ③「課題探究発表会」を実施することで、教科横断的な視点に立った言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成することができた。	①義務教育段階の学習を十分理解している生徒に対する支援の工夫を更に検討し、学力向上につなげる必要がある。 ②今後も ICT の活用を更に進めるため、様々な研修を検討して行く。 ②教員や生徒の管理運用体制を整備し、より利活用しやすい ICT 環境の整備に努める。 ③次年度に向けて継続的に企画・実施・指導していくことで育成をしていく。	・地元商店街に対して、高校生が ICT や SNS の使い方をレクチャーする、地元商店街店舗の困りごと（マーケティングなど）を解決する等の生の課題解決を探究活動に盛り込むなどアイデアとして良いのではないか。 それによって地域との協働を図ることができるのではないか。	①多様な状況にある生徒の実態把握に努め、情報を共有しつつ学習指導に生かした。 ③総合的な探究の時間において教科横断的な視点に立った取組みを行い、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成できた。	①生徒それぞれの状態に応じて必要な学習支援ができるよう学習内容を工夫する。 ②総合探究のテーマ設定や、探究プロセスについて、生徒への能力育成を図る。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる。 ②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組みを進める。	①生徒の現状と課題の把握および支援方法について全教員で情報共有を図る。特に、スクール・カウンセラー（SC）やスクール・ソーシャル・ワーカー（SSW）の来校日には最大限の生徒支援を行えるよう、迅速かつ確実な連携を図る。更に、全生徒への情報発信を日頃から行い、学校生活・健康・保健・安全・食育等について生徒の意識を高める工夫をする。 ②部活動の活性化を目指し、限られた時間でも成果を出すことができ、生徒が有能感を感じられるよう、部活動の内容や指導方法を工夫する。	①生徒の現状と課題や支援方法を早めに知るため、SCやSSWと連携し、情報共有、きめ細かな生活指導と充実した個別相談、生徒の困り感への対応、校内外のトラブルの未然防止に努める。 ① Google Classroom、保健だより、各種情報文書、掲示用プリント等を活用し、学校生活・保健・安全・健康・食育等について、全生徒への情報発信を日頃から行うことで、学校生活や健康上の問題、生徒指導上の問題等を未然に防ぐ。 ②部活動の時間をできる限り多く確保し、限られた時間での活動内容や活動方法を工夫し、大会の参加を目指しながら、日常の活動を活性化させる。	①SCやSSWと計画的かつ迅速に連携し、学年会や研修会等で情報を共有して実際の指導に反映させ、きめ細かな生徒指導や生活支援により生徒の課題解決につなげることができたか。 ①全生徒への情報発信を積極的に行い、学校生活や健康上の問題、生徒指導上の問題等を未然に防ぐことができたか。 ①食堂についての情報提供とともに食育を推進し、生徒の食や健康に対する意識を高めることができ、食育が推進できたか。 ②部活動がより活性化し、生徒の参加率や心の充実度や達成感が増したか。更に大会等に参加することができたか。	①SC・SSW 担当を中心に、各学年団、養護教諭等が連携を図り、支援を必要とする生徒への早期対応ができた。 ①生徒理解と課題解決に向け、かながわサポートドッグの結果を活用し、効果的な支援方法について、SC・SSW による助言を基に、日常の支援につなげることができた。 ①生徒の日々の体調管理を Google Classroom を利用して継続に実施した。 ①夜間定時制の健康課題である、規則正しい食生活と生活リズムの育成を目指して食堂利用を推進し、実践的な食育指導により生徒の食生活への意識が向上した。 ②健康維持や大会参加を目標に活動の意欲を引き出し、部活動の充実につなげ、サッカー部が大会に参加した。	①SC・SSW、外部機関と連携し、職員全体で情報共有したが、本校の課題に沿った支援体制を整えられるよう、さらに校内外の連携を図る必要がある。 ①SC・SSW による面談を実施し生徒支援につなげたが、今後も本校の生徒の実態に即した職員研修を検討し、生徒が安心して生活できる学校環境を整えて行く。 ①生徒自ら健康管理が出来るよう、今後も効果的な方法を模索し、生徒の健康上の問題を未然に防ぐ。 ①食堂の利点を広め、食堂を利用しやすい環境づくりを進めた。今後も食堂の活用について全生徒に周知し継続していく。 ②生徒が活発に部活動をできるよう、活動日・活動方法等を工夫し、活動の活性化を維持する。	・文化祭や部活動を、生徒が様々な活動実践力を身に付けるための機会としてとらえ、自己肯定感や達成感を感じるよう取り組ませるとよいのではないか。	①SC、SSW、外部機関と連携し、職員全体で生徒の情報を共有し、理解を深めた。 ①生徒が安心して生活できる生活環境を整備するため、必要な研修を実施した。 ①生徒の健康問題を未然に防ぐよう GoogleClassroom を継続利用した。 ①食堂を活用した食育を推進しった。	①生徒の情報を職員全体で共有すると同時に、学校内外の連携をより深め、支援体制を更に整えて行く。 ① GoogleClassroom を情報発信に効果的に利用する。 ①生活のリズム作りや食事バランスの大切さを意識させる場として、食堂の活用を進める。 ②生徒の心身の健康維持増進や自己肯定感や達成感を感じる機会となるように部活動の活性化を推進する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月６日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導･支援	･生徒一人ひとりの自己実現を目指し、教育活動全体を通したキャリア教育を推進する。	･生徒一人ひとりのキャリア意識を高め、自分の進路について深く考えさせることで卒業時には進路決定ができるよう、グループ、学年、教科、外部機関が連携し、組織的かつ継続的に、進級･卒業･進路決定につながるキャリア教育を推進する。	･生徒のキャリア意識を高めるために、進路ガイダンス、進路説明会、就職セミナー等を外部機関とも連携して実施するほか、進路なんでも相談、個人面談、授業やLHR等を利用し、個々の生徒に配慮したキャリア教育･進路支援を行う ・Google Classroom の利用など、ICTを活用した進路支援を検討し、進路アンケートや情報提供等、効果的なキャリア教育を推進する。その一環として、職業適性検査を実施する。	･進路ガイダンス、進路説明会、進路なんでも相談、個人面談等を効果的に実施することで、生徒のキャリア意識を高めることができ、進級･卒業･進路決定につながり、卒業生については進学就職希望者の進路決定率が上がったか。 ･ICTを活用した進路アンケートや情報提供等の進路支援で、生徒が自ら進路活動に取り組むようになり、各自に合った進路情報や自分の進路を見つけることができたか。	･進路講演会、進路なんでも相談、就職ガイダンス、身だしなみセミナーや就職内定者セミナーを実施し、生徒の仕事に対する心構えや意識を高めることができ、卒業生の進路決定率を維持することができた。 ･就職･進学希望者が進路を決定できるよう、Google Classroom 、LHR や個人面談等を利用して生徒一人ひとりに応じた進路支援を継続することで、卒業後の進路決定につながった。	･進路ガイダンスや講演会等が一時的な支援で終わらないよう、今後も継続的に実施して行く必要がある。 ･就職ガイダンスや就職内定者セミナー、個人面談、LHR 等で効果的に進路支援を実施できるよう、実施方法や内容を各学年で更に検討し、生徒の進路意識を高める。 ･Google Classroom など、ICT を効果的に活用した進路指導ができるよう、活用方法について、更に検討して行く。	･入学年次からの継続したキャリア教育を実現するために、校内のイベントをつなげていくことが重要。 ･外部から専門学校や企業から話をしてもらうなどリアリティをもって生徒に理解してもらう機会を提供することが大切である。	･進路ガイダンスや講演会等で生徒の進路意識を高めたが、進路全般について更に理解を深めさせる必要がある。 ･LHR や個人面談などを通し、より具体的で個にあった進路支援方法を工夫する必要がある。	･進路ガイダンス等を、LHRや総合的な探究の時間等を活用し継続する。 ･なかなか進路活動に踏み出せない生徒に対して、外部機関とも連携し、有効な進路支援を推進する。 ･ICT を活用した進路支援で生徒の進路意欲を高め、生徒が積極的に進路活動に取り組むようにする。
4	地域等との協働	･保護者や地域と協働･連携した教育活動を展開し、信頼される学校づくりを行う。	･地域貢献活動･ボランティアや文化祭等の学校行事を活性化し、保護者や地域、関係機関の方々と本校との連携を深める。 ･学校説明会やホームページ等による情報発信や広報活動を積極的に行い、希望ケ丘高校定時制の特色や良さをアピールし、より正確に本校を理解してもらう。	･地域貢献活動や文化祭等の学校行事を通して、外部の関係機関、地域、保護者との連携を深め、更に三者面談、個別相談等を通して保護者や生徒との情報共有を密にし、信頼され活気のある学校づくりを行う。 ･学校説明会を学校内外で実施し、中学校訪問、ホームページの定期的な更新、中学校への資料発送等の情報発信を積極的に行い、広報活動を効果的に推進する。	･地域貢献活動や文化祭への参加者が増え、学校行事が活性化し、本校と外部の関係機関、地域、保護者･生徒との信頼関係が深まり、信頼される学校づくりにつながったか。 ･校内外での広報活動やホームページ等での情報発信を積極的に行うことで、希望ケ丘高校定時制の良さをより正確に理解してもらうことができたか。	･生徒、職員、地域の警察や青少年指導員の方々と一緒に交流しながら活動することで、学校周辺の美化や安全な環境づくりにつなげることができた。 ･授業見学、広報誌の作成、文化祭のPTA 企画など、保護者と学校との連携を深めた。 ･ホームページを常に更新し、学校見学を受け入れ、校内･外で希望ケ丘定時制についての説明会を４回実施することで、本校定時制について正確に理解してもらうことができた。	･地域貢献活動については継続的に実施し、地域の警察及び青少年指導員、保護者、PTA 役員の方々への協力要請をして行く。また、生徒会や部活動等を中心に全生徒へ参加の呼びかけを行い、地域との連携を深めて信頼される学校づくりにつなげる。 ･PTA 活動や学校行事等への保護者の参加方法について更に工夫する必要がある。 ･定時制の特色を正確に理解してもらうため、ホームページの情報発信をより積極的に行う。	･地域との連携を高めるために、総合探究や高校生講座などを企画してみてはどうか。	･地域の方々と交流しながら地域貢献活動を実施することができたが、地域との連携方法を更に工夫する必要がある。 ･より現状に合った PTA 活動が必要である。 ･効果的な広報活動の実施方法について更に検討することができた。	･地域との連携を深め、地域貢献活動等により多くの生徒を参加させ、地域の活性化につながるような連携を模索する。 ･持続可能な PTA 活動を工夫する。 ･定時制や入試の仕組み、本校の特色などをホームページや説明会を通して、より丁寧に伝えていく。
5	学校管理 学校運営	･生徒にとって安全･安心な学校づくりを推進するとともに、職員一人ひとりが事故･不祥事防止に積極的に取り組む。	･生徒一人ひとりが、法律を遵守し、交通安全や防犯、防災等に高い意識をもって高校生活を過ごすことができるように、説明会や講演会、訓練等を行う。 ･職員の事故･不祥事防止については、職員全体で主体的に取り組み、ミスや不祥事の無い職場環境を維持する。	･交通安全、防犯、防災についての説明会や講演会、セミナー等の内容を工夫し、関係外部機関とも連携して、交通安全教育、防犯教育、防災教育を効果的に実施する。 ･防災用品や防災備蓄品の点検をしつつ、夜間定時制の状況に合った実践的な防災訓練を実施する。 ･事故防止会議や職員研修会等を実施し、定期テストの共通化、情報共有、複数による点検確認作業の徹底等を継続し、ミスや事故不祥事を未然に防ぐ風通しの良い職場環境を維持する。	･説明会、講演会、訓練等を効果的に実施することで、交通安全や防犯、防災に関する生徒の知識や理解を更に深めることができ、より安心で安全な学校づくりにつながったか。 ･職員研修や情報共有、点検の徹底等により、全職員が、事故は誰にでも起こりうると考え、事故や不祥事防止に取り組むことで、事故や不祥事を未然に防ぐことができ、ミスや事故･不祥事の無い職場環境を維持することができたか。	･車両通学説明会を実施し、交通安全に対する生徒の意識を向上させた。 ･地域貢献活動等において、地域の警察や青少年指導員の協力を得て生徒の防犯意識を高め、学校および周辺の安全な環境を整備することができた。 ･避難訓練の方法や内容を工夫･検討し、夜間定時制の特色を生かした実践的な訓練を実施した。 ･定期テストの共通化、情報の共有化、成績処理等の点検作業を徹底した。教務手帳、テスト答案などの紛失･誤廃棄がないようカギの掛かるロッカーに保管するなど、当事者意識を持ちながら事故が起こらない職場環境を継続することができた。	･車両通学説明会で交通安全に対する生徒の意識を更に高めるとともに、日常的な声掛けを実施していく。 ･地域貢献活動等を継続し、地域警察や青少年指導員、保護者、PTA 等の協力を得て、生徒の防犯の意識をより高める必要がある。 ･4年間を通した防災教育の見直しを図り、防災意識と災害時にも適切な行動ができるよう、災害時の様々な危険についてより深く理解させる必要がある。 ･職員個人による事故を起こさない職場環境を維持する必要があり、定期テストの共通化、情報の共有化、成績処理等での点検作業の徹底を今後も継続する。	･車両通学指導は交通安全教育の観点から評価できるので、全生徒に対する交通安全教育を充実してほしい。 ･防災教育や防犯･非行防止教育は、命や通学･通学路等にも係わることであり、継続的に実施しているので評価できる。	･車両通学説明会を行い、交通安全意識の向上を図ったが、更に生徒の防犯意識も高め、学校および学校周辺の安全な環境づくりを進めることが必要である。 ･夜間の実践的な防災訓練行うことで、生徒の防災意識を高めた。 ･「事故･不祥事」を起こさないよう職場全体で意識し、職員がお互いに注意し合って仕事を進めることができた。	･安全安心な学校づくりを継続し、学校および学校周辺の安全な環境づくりを行う。 ･生徒情報交換での情報共有により共通通理解を図る。 ･職員全員で協力して職場環境を整え、情報の共有化、成績処理等での点検作業の徹底、教務手帳やテスト答案等の紛失･誤廃棄防止などを継続する。